

海外インターンシッププログラム

派遣国・都市名	オーストラリア 西オーストラリア州 パース市
研修先	西オーストラリア州 兵庫文化交流センター
プログラム実習期間	2012年9月4日～9月22日
学部/研究科・学年	国際文化学部 3年

インターンシップ就業実習 報告書

■ 仕事内容

ファームステイ@Corrigin

◎学校

- ・Corrigin District High School における日本語の授業のアシスタント
- ・Babakin Primary School における日本語の授業のアシスタント

◎ファーム

- ・羊追い体験
- ・羊の毛刈り体験

滞在先:スーアン先生のお宅にホームステイ

インターンシップ@兵庫文化センター

◎事務

- ・兵庫センターにおける各種セミナーの準備、片付け
- ・受付業務
- ・図書の貸し出し

◎School Visit

- ・モーニングティー、お弁当の準備、片付け
- ・calligraphy のデモンストレーション
- ・tea tasting の準備、片付け

◎Obento Workshop

- ・モーニングティー、お弁当の準備、片付け
- ・キャラおにぎり作成の補助
- ・駅弁に関するプレゼンの作成、発表

◎メインイベント「Experience HYOGO Japan」の企画・運営

- ・宣伝フライヤーの作成



- ・兵庫県、兵庫の温泉(有馬、城崎)、折鶴、ルミナリエに関するプレゼンの作成、発表
- ・城崎、日本文化との関連で浴衣を着用
- ・折鶴を折り、それを使ってルミナリエアートを完成させる体験
- ・どら焼きの試食、tea ceremony 体験、たこさんウイナー体験
- ・参加者と記念撮影



■ インターンで感じたこと・得たもの

- ・海外での就業体験、社会人とはどういうものなのか、ということ。
- ・思っていたよりも日本語教育に関わらせていただくことが多かった。
- ・日本文化を教えることによって、自らの日本文化への興味が増した。
- ・設備不足、知識不足による、日本語教育についての問題点
- ・日本語、日本文化を教えることの難しさ
- ・ホームステイにおけるパースでの生活、文化を学ぶこと
- ・パースにおいて日本語教育が思っていたよりも普及していたこと

感想および意見

本インターンシップでは、西オーストラリア州・兵庫文化センターにおいて吉田所長、メリッサ副所長をはじめとする、様々な方のご指導のもと、日本文化、日本語教育に関する色々な業務、就業体験をさせていただいた。

例年と異なり、メリッサ副所長のご厚意によって、私たちは最初の3日間、Corrigin という小さな町で、日本語の授業のアシスタントとファームステイを体験させていただいた。3日間というとても短い時間ではあったが、本当に貴重な時間を過ごさせていただけたことを、ホームステイ先を提供していただくとともに、私たちのサポートをしてくださったスーアン先生、ご家族にも感謝を申し上げたい。

Corrigin District High school では、ほとんどの学年で週に1度日本語の授業が行われており、私たちはすべての学年の授業に出席させていただいた。

また、Babakin という小さな町でも、スーアン先生は授業を行っており、こちらの学校では習字体験、だるま作り体験のアシスタントをさせていただいた。オーストラリアの田舎における日本語教育に直接携わるという、貴重な体験をさせていただいた。その中で気になったことが、日本文化がただの activity として子供たちに受け取られているのではないかということである。道具がそろわないため、仕方がないことかもしれないのだが、習字を絵の具の筆と黒い絵の具で行い、習字をする際の姿勢などを指導しないことや、色を塗ってだるまを完成させるだけで、だるまの意味、目を入れることの意味については説明しないなど、文化を教える上での大事なポイントが抜け落ちてしまっているように感じた。

ファームに行く時間は本当に限られてしまっていたのだが、オーストラリアの大自然の中での羊追い、羊の毛刈りを体験できたことは忘れられない体験であった。

来年度のインターン生についてもファームステイはとても良い経験になると思うので、是非行く機会を与えていただきたいと思う反面、兵庫センターで過ごす時間が短すぎる、ということも同時に感じた。2週間では、仕事にも慣れきれず、兵庫センターのことがよく分からないまま終わってしまい、残念に感じる部分があったからである。ファームステイを行うならば、兵庫センターにおけるインターン期間をもう

少し延ばしていただきたい、ということと思う。

次に、兵庫センターでのインターンシップについてである。こちらでも様々な業務に携わらせていただいた。

School Visit では、西オーストラリア州の各地から様々な学校の生徒が兵庫センターにやってきて、兵庫県について、日本語を学ぶ意義等についてのプレゼンを聞き、calligraphy、tea tasting を体験するというもので、私たちは 2 校の School Visit に関わらせていただいた。私は習字をやっていたという経験から、calligraphy のデモンストレーションを行わせていただいた。主にはモーニングティーやお弁当の準備、配布、教室の片付けなど事務作業が中心であった。

インターン 2 週目には、Obento Workshop が 3 日間にわたって開催され、約 10 校の生徒がやってきた。兵庫センター、西オーストラリアの教育省の藤光先生ら外部の方々の主催で、お弁当についてのゲームや activity をしたり、もったいないの概念を学んだり、実際にお弁当を詰めたり、キャラおにぎりを作ったり、と日本独特のお弁当文化について学ぶワークショップであった。その中で私たちは、School Visit と同じように事務作業に携わるとともに、1 日だけではあったが、兵庫の駅弁について紹介するプレゼンテーションをやらせていただいた。メリッサ副所長ら、何人かの方に何度もプレゼンを見ていただき、修正を繰り返しながら、とても苦勞をして作り上げた。オーストラリアには、駅弁という概念がなく、そもそも電車や新幹線が日常生活に密着していない。そのため、ただ駅弁を紹介するのでは、子どもたちに伝わらず、電車や新幹線が日本ではとても普及していること、駅弁はどこで買うのか、といった日本においては当たり前のことをどのように説明するのか、という点でとても苦勞した。また、子どもたちがキャラおにぎり作りをととても楽しんでいたこと、プレゼンの中で駅弁のパッケージに感動していた姿が印象的だった。日本では、パッケージや、キャラ弁のように見た目を綺麗に、可愛くすることはとても重視されているが、オーストラリアにおいてはそうではない。こういった文化の差も、自分が日本のことについて紹介してみることで改めて認識出来たことである。

メインイベント「Experience HYOGO Japan」では、企画・運営をすべて任せていただいた。インターン 1 週目にイベントの大まかな構成を考え、フライヤーを作成した。隣接する日本人学校や、ホストブラザーが通う小学校に掲示していただいたり、School Visit に来た学校に配布したりして、当日は約 50~60 名の方に来ていただくことが出来た。イベントの流れとしては、まず兵庫県に関する紹介、兵庫の温泉（有馬・城崎）、温泉文化に関する紹介、折鶴に関する紹介、阪神大震災・神戸ルミナリエに関する紹介を含めたプレゼンテーションを行った。その後は参加者で折鶴を折り、その折鶴を使ってのルミナリエアートの作成。その後、tea ceremony 体験、どら焼き試食体験、たこウィンナー体験の 3 つの activity に分かれて好きなものを体験していただき、最後に作ったルミナリエアートと一緒に記念撮影をして、終了というものであった。イベントの前の週に駅弁のプレゼンに追われていたこともあり、準備期間が十分ではなかったが、限られた時間の中で出来る限りのことに取り組めたのではないかと思う。

ホームステイ先は、とても温かな家庭で毎日楽しい時間を一緒に過ごさせていただいたことに、本当に感謝をしている。インターン生の私たちはそれぞれ違ったホームステイ先であったが、お互いの家庭が連絡を取り合い、仲良くしてくださったので、休日には、交互にそれぞれの家族が私たち 2 人を連れてどこかへ連れて行ってくれ、様々なところへ行くことが出来、休日もとても充実していた。私たちのインターンシップが充実し、とても楽しく有意義なものに感じられているのは、ホストファミリーの協力によるところが大きいと思う。来年度についても、ホームステイを選択出来るようにしていただきたいと思う。

このインターンシップでは、沢山の日本語教育に携わる機会を与えていただくことで、パースにおいて日本語教育が思っていたよりも普及していることを知ることが出来た。またそれとともに、Corrigin で感じたような、これから改善しなくてはならないであろう、パースにおける日本語教育の問題点も見出すことが出来た。日本語教育に興味のある学生にとっては、このインターンシップはとても魅力的なものであると思う。

紹介することで、自分が日本文化をあまりよく分かっていないこと、思っていることを思うように伝えられず語学力不足を認識した。また、社会とは、海外で働くとは、といったことも感じられた。

大学生という時期にこのような有意義なインターンシップに参加出来たことを、兵庫県国際交流協会、および神戸大学、また携わって下さったすべての方に感謝の意を表したいと思う。